

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年2月25日

No.17

会社：営業施策は計画の9割達成、更なる収入確保に努力する。
組合：ペアは十分支払える。組合員の労苦と期待に応えよ！

～15春闘 第2回賃上げ交渉報告～

中央本部は、本日10時30分より第2回賃上げ交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 1月は北日本の暴風雪により運休列車が多数発生し、コンテナ輸送量は対計画96.5%、車扱で100.3%と全体で98.6%となり、年度累計でも対計画97.9%となった。
2. 今年度の収入落着き見込みは対計画△31億円減の1079億円となる見込みである。内訳は東海道線寸断による減収が約21億円、その他の減収が10億円である。
3. これまで打ち出した営業施策は、ほぼ計画通り推移しているが、年度末に向けて①曜日運休列車の運休解除による増発。②積載率向上に向けた戦略的価格提示を引き続き行なう。③先行申込み制度の拡大を図るとともに、先行申込みしたコンテナの運賃に対して1個1,000円を増額するなどの施策を行い、収入確保に努める。

【関連事業部門】

1. 平成26年度落着き見込みは、鉄道補完事業で若干の減収となるが、鉄道付帯事業で挽回することによって10月期改定で設定した目標を達成する見込みである。
2. 来年度は開発可能用地減少やリニア工事による梶ヶ谷タでの契約終了があり、非常に厳しい状況である。

【組合の主張】

1. 我々はそれぞれの職場で安全確保・安定輸送に向け最大限の努力をしている。一方、様々な場面で汗を流し、時には血をも流してきた。この事を改めて認識すること。
2. 10月期改定で立てた計画が実現可能であったのか疑問である。災害を差し引いても10億円にも及ぶ収入未達は極めて経営の責任であり、組合員への責任転嫁は認められない。
3. トータルの収入動向を見る限り、支払能力は十分にあることは明確であり、組合員の期待は当然大きい。これまでの組合員の努力に報いるために誠意ある回答を示すこと。

【会社の回答】

1. この間の会社施策に対して協力をいただいていることは認識しており、感謝申し上げます。
2. 厳しい状況の中ではあるが、全体のマーケットの状況と収支を考慮し、これまで進めてきた営業施策を継続して実施し収入確保・拡大につなげていく。
3. 会社の現状は本日明らかにしたとおりであるが、引き続き会社としても真摯に議論は行なう。

最後に中央本部は、「組合員が今後将来展望を持って仕事をするためにも、人に対する投資は必要不可欠である。会社として責任を果たすこと。」と主張して交渉を終了しました。ペア獲得に向け中央本部は交渉を強化していきます。

以上

次回、第3回交渉は、3月4日(水)です。